



# 桐生17号発行によせて

会長 八木橋 祥 价

秋も終り、寒さが増す今日この頃ですが、同窓会員の皆さんには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。何時も同窓会活動に格別なご理解とご協力を賜り誠に有難く厚くお礼申し上げます。

桐生17号発行に当り一言ご挨拶申し上げます。  
今や本校同窓会は他校に例をみない質の高い充実した活動をしております。この要因は本部行事へのご理解・ご協力はもとより、県内外多くの支部組織と活発な支部活動に支えられて居るからであります。本年5月には初めて、中部支部会員皆さんのご協力により関西・中部・静岡・埼玉支部による合同総会並びに懇親会が春日井市で開催され桐生からも正副会長、校長、教頭を始め多くの役員が大型バスで出席し有意義な交流を深めることが出来ました。翌日、愛・地球博を見学することが出来、関係役員の皆さんに深く感謝を致して居る所です。さて、今年も同窓会員のより強い絆を持つ意味で重要であります。定時総会、記念講演、懇親会が6月に市民文化会館にて大勢の会員の出席を頂き、盛大に開催されました。又、8月には恒例に成っている親善ゴルフ大会も第14回目を迎え県内外より160名近い会員の参加を頂き赤城カントリー倶楽部で個人戦、支部対抗戦が行われました。先輩、後輩入り乱れての喜々とした交歓は同窓会ならではの感を深く致しました。今共々、本校同窓会は一層充実、発展されるものと確信しております。次にご紙面をお借りして改めてご理解ご協力賜りたい事があります。本年度4月より少子化の影響で母校も1クラス減となりました。1クラス減は40人分の収入減となり今後の会運営に多大な支障が生じることとなります。現在、財政の見直しに努力を致して居りますがここで前池田会長のもとで正副会長、常任幹事、顧問の皆さんより賛助年会費を頂いていることが貴重な収入源であることを実感致して居ります。今後共会員皆様の絶大なご理解とご協力を切にお願ひ申し上げ次第であります。終りに同窓会の運営に当たり過分なご尽力を頂いている学校と事務局の方に深く感謝申し上げますと共に桐生同窓会のさらなる発展と同窓会員皆様のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

編集発行 第17号  
群馬県立桐生工業高等学校  
TEL (0277) 22-7141  
FAX (0277) 46-4703  
同窓会事務局 編集部  
群馬県山田郡大間々町大間々2271  
TEL (0277) 73-5555  
印刷 株式会社大間々印刷

## 資格指導の 充実を目指して

校長 富澤 弘 幸

同窓生の皆様方には、日頃より母校に対するご支援・ご協力を頂き、感謝を申し上げます。  
さて、近年の社会情勢はその変化が著しく、学校を取り巻く環境も激しい勢いで変わってきています。本校としても、今後の進むべき方向性や将来像を考えていく上で、多様化したニーズや少子化現象への対応等を考慮する必要性がでてきました。本校では、これまでも社会が求めている人材を育成し、送り出す為の様々な取り組みを行ってきました。現在は、ものづくり教育を中心とした学習に力を入れています。生徒達も自分の目標達成に向けた努力を日々続けており、最近ではその成果が形となって現れてきました。これらに伴い、資格取得に関しても一定の成果が見えてきました。高校在学中に取得した職業資格や技術・技能検定等の合格実績を得点化し、認定する、ジュニアマイスター顕彰制度にも本校の多くの生徒が挑戦し、その称号認定を受けることが出来ました。これからも国家試験や検定試験等に挑戦してもらいたいと思っております。本校では、社会情勢の変化に対して常に対応しながら、生徒自身が学びたいことを学べる様な学校づくりを目指して、今後も努力を続けて行きたいと考えています。  
同窓生の皆様方には、これからも本校に対して温かいお心でご指導頂ければ幸いです。

## 総会

● 期日 平成16年6月19日(土)  
● 会場 桐生市市民文化会館 4階スカイホール

平成17年度総会が石記期日・会場において130名の会員にお集まりいただき三部構成で開催されました。

一部総会では八木橋会長の議事進行により平成16年度事業、会計及び監査報告が行われ、続いて平成17年度事業計画案・予算案及び新役員変更案が承認されました。

事業報告では昨年アテネ五輪で活躍された諏訪選手の関係、計画では県外合同支部総会や平成17年度版会員名簿発行などが報告、承認されました。その後、各方面で活躍され、厚生労働大臣特別表彰受賞の北澤政雄(22紡織卒) 旭日小

## 開校記念講演会

講師 田島 義 弘 先生  
(昭和39年色染化学科卒)



今年5月1日の講演会は昭和55年〜平成7年までの間、母校であります、桐生にて保健体育教諭、又、陸上部監督として勤務なされ、その間に同部を駅伝全国大会出場に幾度と導くと共に、昨年のアテネ五輪に出場を果たす快挙を果たした諏訪選手など数多くの陸上界活躍選手の育成に手腕を發揮されました。田島先生をお招きし、諏訪選手在学時のエピソードを中心に講話を頂きました。



経章受賞の山口多賀司(23色染卒) 旭日単光章受賞の小林幸雄(24色染卒) 厚生労働大臣表彰受賞の清水健司(28染織卒) 法務大臣表彰受賞の堀照尉(31染織卒) 経済産業大臣表彰受賞の岡田正(44紡織卒)の六氏に同窓会表彰者として記念品を贈呈し、一部総会は

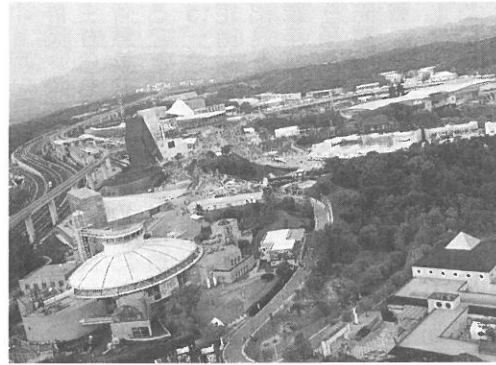
終了しました。続いて行われました二部総会記念講演では埼玉支部長を歴任され現在も環境省の環境カウンセラーをはじめ、環境問題について取り組む多くの会で活動されている米山稔氏(23紡織卒)が演題「環境の世紀と私」と題し温暖化など今、話題の環境保護について話されました。  
最後は三部として懇親会が盛大に行われ、日程は終了しました。



# 県外合同支部総会 & 愛・地球博見学会 開催レポート

## 中部支部

昭和 35 年 機械科卒  
蟹江光正



桐生工業高等学校同窓会県外支部の合同総会は去る5月7日(土)、万博会場の隣町である愛知県春日井市の勤労福祉会館で開催されました。前日の雨がほこりを払い、新緑薫る五月晴れの素晴らしい好天となった。この会場は、日本の公園百選の1つであり、愛知県で2ヶ所内の1ヶ所である。この落合公園の一角に会場がある。翌8日(日)、愛・地球博見学会を兼ねての企画となった。参加者は桐生の本部から、八木橋同窓会長を始め、校長、教頭、顧問、事務局長以下 16 名、埼玉支部から1名、関西支部から17名、静岡支部から6名、地元中部支部から17名、合計57名の参加となった。少人数で

したが、多士済々、全国の同窓会の代表が集まったセシモ二丁は圧巻であり、なつかしく、新鮮な刺激がありました。

万博当日の8日(日)は快晴で、まだ入場者も少なく、絶好の見学日和となった。各支部単位で行動することとした。

“自然の叡智”愛・地球博と銘打たれたこの万博は、大阪万博以来35年、愛知県としては、オリオンピクニックの誘致に失敗した後の開催でありました。2月17日には中部新国際空港(セントレア)の開港に引き続き、希望に燃えて3月25日に開幕致しました。万博協会の入場者目標は1500万人であり、1日平均8万人というものであった。開幕当初は様子ながめの状況で、出足が悪かったが月を追うごとに盛上がりて来て、9月に入ると連日、20万人を越え、9月25日に2204万人をオーバーして閉幕した。“偉大なる田舎愛知”が“日本の愛知”から“世界の愛知”に大変貌した感がある。185日(半年)に渡った万博もようやく閉幕した。小生も8回通った。通し券を購入した地元瀬戸市の主婦など毎日通い、“万博母さん”として有名になっているところである。暇で幸せな人もいるものだ。万博協会は次のように総括した。いままでの万博にはなかった新しい成果を生むことができた。

①最先端技術が地球的課題の解決にどう役立つかを体験していた。②自然や環境に配慮した新しい生活の仕組みを実感していた。③NGOや市民の方々に積極的に参加していただき、一人一人の活動が地球的課題解決に

かに大切かを共感していただきた。④解決の道はひとつでない。多様な文化と価値観を理解し合い、許容し合うことの大切さを共有していただいた。「世界の国々への理解と地球環境に関することが印象的だった」。愛・地球博に参加された人の最も多かった感想である。

初めての試みであるこの合同総会は、主催責任者の中部支部長としての率直な感想は晴天、無事故大成功を納めたものと安堵し、私なりに満足して居ります。総会の折に、ごなだかが云われました。“何年かに復た、こんな形で県外支部合同総会を持ち回りで開催したらどうか”との提案を頂き、前向きに検討する事も「同窓会活性化」の方向としてすばらしい試みであると痛感した次第であります。お陰様で中部支部は合同総会以降、メンバー相互の信頼と親睦、友情が一層深まりました。合同総会目指して毎月、実行委員会を開催してきた流れがそのまま継続され、毎月第一日曜日の9時から、“例月お茶会”として、中心幹部が寄り合い、親交を暖め、新たな交流が始まりました。更に充実した中部支部へと成長していく事を決意しレポートとさせていただきます。



桐生からの参加者一同

## 県外支部だより

Jリーグサポーター歴10年、京都パープルサンガを応援しています。

### 関西支部

昭和37年 色染科卒  
高木 淑



横断幕を、家族で手作り、西京極のバックスタンドに、揚げています。今年は、オー京都ゲッツトピクトリー、一昨年は、オー京都ゲッツト!タイトルを揚げて、天皇賞を勝ち取る事ができて、最高の喜びでした。今年は、J2リーグで首位と、好調で10月中旬には3年ぶりのJ1昇格を決めました。応援はホームゲームだけでなく、アウェイゲームにも行き、前橋でのガスバ草津戦も観戦しました。今後もガスバ草津戦を観戦できればと計画しています。退職後のライフスタイルとして、サッカーを楽しんでいます。県内のサッカー好きの人、前橋でサッカーを楽しもう!

### 静岡支部

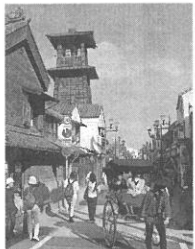
昭和28年 機械科卒  
松村元夫

静岡支部は、総会を中部支部と合同で3回、愛知と静岡にて開催しました。本年第9回の総会は、関西、中部と合同で本部から多数の役員、先生方の出席を得て、県外支部合同で盛大に開催致しました。翌日は万博見学も行い、思い出に残る記念総会となりました。来年度は地元で開催という事になるうかと存じます。10年目となりますので更に充実した支部活動を展開してまいりたいと思っております。さて、私共支部設立に多大な功績のある大澤相談役が、本年初頭入院されまして、会員の有志の皆さん多数でお見舞いを致しました。かなり回復された様子で、いろいろと談笑の機会ともなりました。急なお話でしたが、7月に故郷桐生へ帰られる事になりました。大澤先輩のご健勝を支部一同お祈り申し上げます。

### 埼玉支部

昭和23年 色染科卒  
松下 做也

平成16年度は、支部ゴルフ大会第10・11回を開催し、第14回本部ゴルフ総会に計6名、17年度本部総会に計8名当支部より出席した。11月5・6日は第9回ゴルフ大会と秋季旅行並びに懇親会を、奥秩父の両神温泉及び紅葉の名所中津渓谷で開催し、秋を満喫した。とらうらひ埼玉だより22、23号を発行した。マンネリ化より脱却するため、県内持ち回り方式による初めての、第13回総会を古くからの城下町川越市で、本年3月13日に開催した。午前の第一部では観光バスを利用して市内の名所旧跡を尋ね、午後の第二部で会議、懇親会を開催した。桐生より会長、学校長、事務局長のご出席を頂き、出席者計20名で親交を深めた。又、特別会員大須賀氏等の絵の共催展が丸善で平成16年8月に開かれた。



### 近接支部だより

#### 笠懸支部

昭和31年機械科卒  
藤生 吉雄



笠懸町は、来年3月、2町1村の合併によりみどり市になります。

生活圏を守り都市間競争に負けない為には広域合併がベターのはず。出来るだけ早い時期に大同団結を実現させたいものです。  
笠懸支部は平成4年11月1日に設立されました。その後藪塚支部が結成され、2支部が共同で桐工

#### 藪塚支部

昭和34年機械科卒  
高橋 新一

桐生工業高等学校同窓会藪塚支部第7回定期総会は、風薫る5月21日(土)地元倉壽司を会場に落合幹事の司会により、会員数125名、参加者12名各委任状56名で、新支部長高橋が全員一致で承認され議長で、式次第に従い、平成16年度事業報告、会計報告・監査報告・平成17年度事業計画(案)、その他各幹事から提案・承認され、特にその他の項目では、本部分支部対抗ゴルフ大会への参加要請、支部ゴルフ大会開催、他高校同窓会との交流会開催計画など支部の活性化を如何に進めるかまた、真の会員の再確認(支部組織の拡充)をどうするか今後の課題として確認し総会を終りました。

の移転誘致の運動をしました。当時、広域圏の一体性確保のため新生桐工の移転問題を提起したのであります。

わが笠懸支部は会員数1100有余名を数え、年会費壹千円納めた者をもって工(たくみ)会と組織しています。恒例の親会、ゴルフ大会には毎回出場、過去、優勝、準優勝、第3位(2回)と常に好成績を残しております。アテネ五輪マラソンの諏訪選手や全国大会出場の桐工定時制野球部に対し、会費よりカンパの協力をさせて頂きました。平成17年度は7月に大安閣で総会を開き(33名参加)、笠懸支部及び親会の親善ゴルフ大会参加、同窓会OB経営企業の見学会を計画しました。

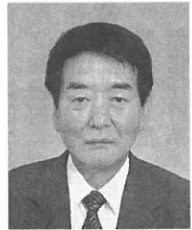


その後武井事務長の司会進行で、本部八木橋会長・藤生副会長、百海事務局長及び笠懸支部より3名の来賓を交え懇親会に移り恒例により支部長挨拶、八木橋会長より来賓挨拶、笠懸支部紹介、乾杯と限りある時間の中で参加者全員の親交を深めると共に、健康には充分留意し今後益々の活躍を期して声高らかに校歌斉唱し有意義な時を過ごす事が出来ました。以上報告とさせていただきます。

その後武井事務長の司会進行で、本部八木橋会長・藤生副会長、百海事務局長及び笠懸支部より3名の来賓を交え懇親会に移り恒例により支部長挨拶、八木橋会長より来賓挨拶、笠懸支部紹介、乾杯と限りある時間の中で参加者全員の親交を深めると共に、健康には充分留意し今後益々の活躍を期して声高らかに校歌斉唱し有意義な時を過ごす事が出来ました。以上報告とさせていただきます。

### 足利支部

昭和37年機械科卒  
宮本 勝勇



足利支部もお陰様で、設立以来12年が経過し、平成13年には県

下全会員に会報の郵送を行い県内同窓生に支部設立を知らせた。会員の方々も当初より肩の力も抜け、気軽に役員会や行事に参加していただいております。特に、この数年は中里武雄氏(36機械定卒)が中心となり親善ゴルフ大会に参加し、本部役員や他支部の方々と親交を深め情報交換をしている事を心強く思います。当支部は地域的には、母校に最も近い県外の支部であります。近年は多くの面で桐生市との交流が行われるなか、八木節保存会を通し、両市の絆を強くするために足利市のリーダーとして活躍している新井哲夫氏(41機械卒)や多くの方々がそれぞれの分野で力を発揮してくれているのが現状です。中でも橋本日出夫(36機械卒)は、永年、消防団員として活躍した功績と人望が評価され、昨年、足利市長より足利市消防団長を任命され、市民の生命と財産を守る任務を先頭にたつて尽力して事に会員一同誇りに感じています。

平成13年からの近接支部だよりも各支部を一巡しました。感謝申し上げます。今後も支部・クラス会など投稿記事ご協力願います。

### 群馬中央支部

昭和16年機械科卒  
荻野 章

群馬中央支部は、平成7年3月18日前橋支部として設立発足しその後地域拡大組織整備等の要請もあり群馬中央支部と改編され現在に至っております。この10年を振り返ると前半期は総会、ゴルフ大会と比較的活発な活動が行われましたが、近年これらの活動も疎遠になってきている現状であります。しかし本部主催のゴルフ大会には毎年10名程度参加している状況から、今年支部内においても独自の企画により支部運営活性化の起点にしたいとの観点から10月21日に富岡にて、ゴルフ大会(10名)を開催し終了後前橋にて懇親会と拡大役員会をゴルフ不参加者を含め14名にて実施しました。この会合では今後の総会の計画や一人でも多くの会員が集う支部活動の活性化について検討しました。

連日の猛暑が続いたこの夏の中、当日は台風と前線の影響で早朝と昼に強い雨が降りましたが、会員皆様方の熱いプレーのおかげにより、その天候にも負けず無事に8月24日、第14回親善ゴルフ大会が赤城カントリー倶楽部において150人を越える参加者が集い開催されました。  
今年も近接支部の方々だけでなく県外支部の会員の方々の参加があり大会は盛り上がり気満々で行われました。  
下段に大会結果を報告いたします。

### 親善ゴルフ大会



個人優勝 3回目  
小保方英児氏



団体優勝 13支部  
田島孝宏氏

◆団体戦(ネット合計) 敬称略	優勝 13支部	357・2
準優勝 16支部	359・8	
3位 8・9合同	361・4	
4位 藪塚支部	362・4	
5位 笠懸支部	364・0	
◆個人戦(ネット)		
優勝 小保方英児	68・2	
準優勝 田島義弘	68・6	
3位 井沢一彦	69・6	
4位 小野田正司	70・0	
5位 赤石昇	70・2	
◆ベストスコア賞		
一般 田島孝宏	71・0	
シニア 坂本 實	79・0	
◆ニアピン賞		
坂本 實・蛭間章雄・高峰孝三		
田中尚文・松原茂雄・毒島廣治		
乙幡 茂・宮田靖年		
◆トラコン賞		
一般 田島孝宏・橋本隆年		
井沢一彦・下山和彦		
シニア 高草木栄一・中里武雄		
村田永昌・佐通嘉一		

# 学校だより

## 新生・建設科 スタートにあたり

建設科長 教諭 佐々木正純

平成17年度より建設科と土木科が統合され建設科(40名)に学科改編されました。

1年生では建築、土木の内容をより詳しく知り、かつ自分の適性や進路希望などを考えて2年から建築コース、土木コースに分かれます。また3年生では選択科目を設け大学進学を目指す普通科目を重視する者、建築・土木の内容をより深める者、建築コースの生徒が土木の科目を学ぶまたその逆を学ぶ者、というように多様な希望にできるだけ応えられるよう工夫しました。



企業見学で富弘美術館に行ってきました

コース分けについてバランスが悪くなると困るなど考えていました。しかし、入学当初よりコース分けの希望を取り、その後の授業や講演会などを工夫した結果、全員が希望通りの建築コース22名、土木コース18名ということで決定しました。今後地域への期待に応えられる建設科になるよう努力をしていきたいと考えています。

## 祝・定時制軟式野球部 11年ぶり明治神宮全国大会 へ出場する

定時制教頭 高野純一

このチームの特長はバッテリーがよいこと。守備は半数が未経験者で不安を抱えていた。

県予選は4校参加で伊勢崎工に4対2、決勝は前工に7対1で優勝した。続く北関東大会は栃木の宇都宮工業と対戦。福井(4年)の大活躍で9対1と圧勝した。

全国大会初戦は府中球場で行われた。1回表連続ヒットと四球で1アウト満塁のチャンスに期待の坂本が三塁ゴロ、ゲッツウでチャンスが一瞬に消えてしまった。その裏エース稲邊の速球に各打者手が出なかつたが四球をきつかけに盗塁され内野が浮き足立ちエラー、ヒットなしで1点を奪われてしまった。2回は下位打線であんなにか迎えたが、3回は上位打線に捕まり野手の中間にあがったフライを取れず四球と盗塁エラーと完全に相手のペースになつてしまった。アウトを取るのには三振のみと投手の負担が増し、粘る打者にカーブや甘い球を選ばれ痛恨の押し出しで一挙5点を奪われた。この後5回の4失点でコールド負け。



明治神宮野球場

守る時間ばかりで暑さで疲労し桐工打線は不発に終わった。生徒は「井の中の蛙、大海を知らず」とのあり貴重な体験をした。必ずや今後に生かしてくれると信じている。対戦した尼崎工は昨年優勝した湘南に惜敗し3位入賞した強豪だった。

今回、同窓会の皆様のあたたかいご支援により全国大会に出場することができました。心より感謝申し上げます。



協賛頂いた各位にお礼申し上げます。

## 事務局だより

事務局は、非常に充実した年となりました。

母校の創立70周年、本校卒業の諏訪利成選手のアテネ五輪出場決定(H16年3月)・応援・激励金募金・壮行会(7月)、中部支部主催による県外支部合同総会(中部・関西・静岡・埼玉・桐生・本部)と愛知万博見学(5月)、H17年版会員名簿(5年毎)発行、定時制軟式野球部全国大会出場応援募金。恒例の各役員会・総会・親善ゴルフ大会・会報桐雷の発行・支部長会議、各支部の総会(H15は半数強、H16年は1/3の支部が開催)、母校への支援等々。役員・会員の皆様方のご支援・ご協力に対し厚く御礼申し上げます。

事務局では、H17年版会員名簿を元に桐生市内全17支部の会員住所と住宅地図による照合を行い、ほとんどの方を確認できました。各支部では会報「桐雷」の全会員への配布と本部事業・支部行事の連絡を行き渡らせるよう役員組織の強化をお願い申し上げます。

## 資格取得

### 機械科 技能検定への取り組み

機械科教員 鹿木健司 昭和61年色染科卒

藤平光宏 平成5年機械科卒

バブル全盛に就職し、数々のいい思いもしました。バブル崩壊後少し改善し、失業率4%台と良くなっています。しかし、フリーターは217万人と10年前の2倍となり、二丁52万人も若年層(15~24歳)と、早期退職者753(中卒7割・高卒5割・大卒3割)も増えていきます。

その中で、機械科は、価値ある資格の見直しで、技能検定を選択しました。きっかけは、高校生もつくりコンテスト大会後、その技能をいかすためでした。また、

自己のスキルUPを目的としていたが、生徒の取り組み意識が高まり、自分



から、より早い工程を探すなど、協調性や自立心等がでて、受検の成果が思ったより良かったことが驚きました。

私が教員になった今、企業での経験で、「苦しい時こそ自己に託す」の最大のチャンス」が上司の言葉でした。生徒にもなにか一つでも、心に残り、一生懸命やったら誇れる一つが、技能検定ではないかと思えます。今後も、頑張ります。

## 編集後記



桐工同窓会に携わる様になって10年が過ぎようとしています。「桐雷」を通して、今、桐工が何を目標に進もうとしているのかを知る事は、とても重要な事だと思えます。

今回発行の「桐雷17号」には富澤校長先生を始め機械科の先生方の投稿から、生徒達に目標を持たせ、資格を取得させ、子供達が世の中に出て、立派に生きて行ける力を身に付けさせ様としている姿が良く理解出来ます。

同窓会の親睦と同時に、今の桐工生の良き応援団でありたい、いつも思います。桐雷発行にあたり、関係各位の御努力に感謝申し上げます。

- 新顧問  
高野純一氏(定時制教頭)
- 新任幹事  
田村泰信氏(34D)
- 新支部長  
天野隆司氏(26W) H17・5  
小川茂氏(44E) H17・10  
山根嘉一氏(40F) H17・5
- 四・五支部  
四・五支部  
十支部